

『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、以下の要領で特集「多言語社会日本の言語接触に関する実証研究」（エディター：松本、松丸、高田）の論文を募集いたします。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。

なお、特集では最終投稿期限が設定されていますのでご注意ください。投稿論文は基本的に投稿され次第、査読作業に入ります。したがって、より早く投稿された論文ほど、査読が早く済み、論文を修正する機会が多くなります。最終投稿期限は特集論文の投稿を受け付ける最終期限という意味ですので、早く投稿できる方は早めに投稿されることをお勧めします。刊行時期までに採用とならないときは、特集号以外の号に掲載されることもありますのでご了解ください。

特集論文の最終投稿期限：2013年11月29日（金）

掲載号の発行：2014年8月（第17巻第1号に掲載予定）

特集論文の投稿先：2013年8月1日以降に、新電子投稿システムを利用して投稿のこと（本学会HPの「学会誌」ページ参照）

タイトル：多言語社会日本の言語接触に関する実証研究

担当エディター：松本和子（東京大学）

松丸真大（滋賀大学）

高田三枝子（愛知学院大学）

本特集の目的は、国内で観察されるさまざまな言語接触の実証研究を集めることで、①改めて日本の多言語社会としての側面に光を当て、国内に存在する多言語コミュニティの歴史と言語生活への理解を深めること、②言語接触に関するさまざまな現象を理論的な枠組みを通じて考察・洞察する礎を築くことである。

前例のない速度でグローバル化が進展する今日では、かつてないほどの高い人口の流動性がみられ、「単一言語社会日本」という神話も風化しつつある。国際結婚や帰国児童、海外からの移民や長期・短期滞在者の著しい増加が日本全国でみられるようになった。一方、改めて古くから国内に存在するアイヌや琉球の言語や文化、さらに在日韓国・朝鮮・中国コミュニティ、中南米出身の日系人出稼ぎコミュニティへの関心も高まりをみせている。

近年「東京移民言語研究会」「多言語多文化研究会」「第1言語としてのバイリンガリズム研究会」「言語管理研究会」など、多言語環境にまつわる研究会も多数立ち上げられ、言語接触に関する研究は日本国内において着実に注目を集め、学問的にも「萌芽期」から「成熟期」へと移行すべき時期に差し掛かっている。

本誌では、これまで「日本語と言語接触」(2000年)というテーマのなかで、日本国外で邦人移民によって持ち出された日本語と現地語との接触に焦点を当てた論文を特集したことはあるが、日本国内の多種多様なコミュニティで観察されるさまざまな言語接触に関する特集が企画されたことはない。

そこで、本特集では多言語社会日本で観察される多種多様な言語接触に関する最新の実証研究を集めることで、多言語社会日本の現状を把握し、現時点における言語接触に関する社会言語学的研究の成熟度を示すものとした。各論文においては、コミュニティの歴史的背景や現在の言語生活などを含め、コミュニティの社会言語学的状況・特徴を明らかにしたうえで、個々の現象の分析と解釈がなされることを求める。それにより読者は、個々の興味深い言語現象のみならず、多言語社会としての日本の姿を概観することができるであろう。

研究対象は、上記以外にも、増加し続ける海外からの帰国児童の言語保持と言語衰退や、首都圏を中心に急速に拡大しているインターナショナル(プリ)スクールに通う日本人児童の言語混合・切り替え、農村に嫁いだフィリピン・中国・韓国人妻とその子供たちの言語使用に関するものなどが挙げられるが、これらに限定されるものではなく、日本国内で言語接触が観察されるあらゆるコミュニティとする。

また研究手法としては、当該コミュニティにおいて現地調査を行い、アンケートやインタビュー、参与観察、自然発話などによって得られた言語データやエスノグラフィーを、関連した先行研究や理論に基づいて定量・定性の両方、またはいずれかの手法で分析するような実証研究を募集する。とりわけ、定量分析に関しては、単純に「データが数量化された、あるいは統計を用いた分析」を意図するものではなく、統計などによって示唆された傾向を、コミュニティの歴史や文脈などの社会的・言語外的諸要因、あるいは言語内的諸要因との関わりを通して考察・議論し、解釈する姿勢が必要である。

また、「成熟期」の入り口に位置する研究論文として、各コミュニティで観察される興味深い現象の単なる描写や記述に終始するのではなく、そこから一步踏み出す形で、関連した国内外の先行研究との比較を通じ、その類似性・特殊性などへの考察も加えて、国内外で展開されている理論構築への貢献を志す研究を求める。

本特集がきっかけとなり、日本の研究者が言語接触に関する理論構築へより積極的に貢献するようになることを期待している。

参考文献

ロング, ダニエル(編)(2000)「特集:日本語と言語接触」『社会言語科学』第3巻,第1号。